

府立高校特色化推進プラン～魅力あふれる46の特色～

検討会議名 府立高校特色化推進プラン検討会議
 担当部課 教育庁指導部 高校教育課

■現状と課題

社会情勢の変化、経済・雇用情勢の悪化、グローバル化・少子化などの進展などに伴い、高校教育を取り巻く環境が激しく変化している。また、高校等への進学率が98%を超え、中学生のほとんどが進学する中、生徒の学ぶ意欲や興味・関心、目的意識、進路希望などが多様化している。

現在、府立高校46校では、生徒の個性・能力を最大限に伸ばすため、教育システム・入試制度の見直しや、各校の魅力づくりを進めているところであるが、さらなる府立高校全体のレベルアップを図り、生徒一人一人に応じた教育と時代の変化に対応した教育を実践するため、各高校の特色化を推進することが必要である。

■達成したい具体的な目標

- 1 府立高校全体のレベルアップ
- 2 生徒に対するケアの充実
- 3 各高校の特色化推進

■プランの方向性～特色化を進める10の柱と方向性

柱	方向性や具体案
①質の高い教育	<ul style="list-style-type: none"> ○全校に最先端のICTを活用できる環境を整備 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末や専用教材等の整備 ・ヘルプ機能も兼ねた情報教育アドバイザーの配置 ・生徒が使えるポータルサイトの導入 ○府立高校でしか学べない特色ある教科・科目の開設 ○入学から卒業までの生徒の学力状況・生活実態の変化の把握 ○民間ノウハウを取り入れた新しい指導方法や授業の展開 ○生徒一人一人の力を最大限伸ばすための新たな指導方法の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・35人程度学級、少人数指導方法、大規模講座 ○北部地域の医療を担う人材の育成 ○中高一貫教育の今後の在り方の検討 ○将来のスペシャリストを育てる職業系専門学科教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成や職業につながる資格取得の推進 ○社会のルールやしぐみを学ぶシティズンシップ教育の充実
②教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○特色化を具体化する新たな教職員配置方法の開発や加配措置 ○従来の方方法にとられない教職員の採用と育成 <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い分野のスペシャリストの採用 ○時代の変化に対応した力量アップにつながる研修 <ul style="list-style-type: none"> ・民間力活用やOJTを充実させる仕組みづくり ・教職員の資質能力の向上に向けた、校種の枠を超えた研修 ○学校経営に参画する事務職員の育成 ○各高校の特色に応じた教職員の認証制度の導入
③府民の信頼を得る学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○校内アセスメントや広報・企画など、学校裁量による新しい校内組織に応じた人的支援 <ul style="list-style-type: none"> ・校内アセスメントを主導する特別チームへの人員配置（チームリーダー等に対する授業時間の軽減など） ・ガンバル高校への応援、予算・人員措置 ・外部からの寄付の受入など、高校を支援する方策の検討

	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営の「見える化」推進 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による評価や学校教育モニター等の導入 ○「脱少年非行ワースト1」を目指した生徒指導体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・中高連絡推進員の配置など中高連携した指導体制の構築
④徹底した進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育推進チームの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセラーやキャリアアドバイザー等の常設 ・あらゆる機関と連携した進路指導体制強化（人員充実） ○真の自立につなげるキャリア教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として生きるために必要なスキルを身に付けさせる教育プログラムの確立 ・個に応じた教育プログラムの作成・実践
⑤修学の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○交通不便地にある高校への施策 <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果を高めるための寮の設置 ・地域の公共交通機関と連携したスクールバスの運行 ・通学費や寮費の負担を軽減する補助制度の拡充 ○それぞれの分野のスペシャリスト（専門職員）配置 <ul style="list-style-type: none"> ・外部人材を含めたチーム指導体制の整備とコーディネートする人材の配置 ・外部人材の活用や外部委託、事務職員の活用などによる教員の生徒と向き合う時間の確保 ・スクールカウンセラーの配置の拡充 ・放課後等の自学自習を支援する人員の配置
⑥部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○全国トップレベルのアスリートの育成 ○トッププレイヤー、指導者の特別コーチ招聘 ○生徒が生き生きと輝く部活動の創設
⑦土曜日の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜日を活用した学校教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の活用や外部委託による新たな学力向上策の展開 ○府立高校の人材活用や施設開放等による地域への貢献 ○土曜日だからできる異年齢交流の推進（小・中学生、高齢者等）
⑧多様な人間力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○文化活動・芸術教育の充実（豊かな人間性の育成） <ul style="list-style-type: none"> ・拠点校方式による施設設備の重点整備 ・生徒の活動の場を広げる支援策の充実（経費補助など） ○チャレンジ精神の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・起業家支援や体験活動の充実 ・グローバル人材育成に向けた海外留学制度の拡充 ・職業系専門学科に学ぶ生徒の海外体験留学の実施 ○「古典の日」にちなんだ京都らしい伝統文化事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の伝統文化等の取組への支援
⑨発信力・広報力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○府立高校への志願につながる生徒・保護者へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・パブリシティのより積極的な活用 ・中学校の退職校長等の高校への配置等による中高連携推進体制の整備 ○民間手法による各校広報活動の刷新
⑩各校独自の施設設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○各高校の特色化に直結する施設設備の重点整備（学習指導、専門教育、部活動など） <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って進学する生徒の「やる気」応援施設の整備 ・栄養管理の整った宿泊施設や寮の整備 ○生徒の居場所となる学習室の整備 ○災害等緊急時の生徒の安全確保のための設備等の整備

■ 検討委員からの主な意見

- ・ 質の高い教育を進めていくためには、機器・施設の整備、教員の資質向上、さらには工夫した教育を推進するための教員配置が必要である。
- ・ 北部地域の医療の問題は深刻である。府立高校から医学部に生徒を送り出し、医師となって地元に戻ってくるという実績をつくり、医師を定着させなくてはならない。北部の高校に医学部進学コースの設置が必要である。
- ・ ICTは、子どもの視覚に訴えるという点で非常に効果がある。社会や理科でのイメージづくりなどにおいては、臨場感を持って理解できるなど効果も大きい。生徒自身が機器を活用してプレゼンテーション力を定着させることが大切である。
- ・ 高校入学段階での生徒の学力実態は大きく変化している。自校の生徒の学力実態を把握する上で、府立高校実力テストの活用の工夫がより必要になる。
- ・ 高校卒業後進学しない生徒が、自立して生活していくためには、高校教育の中で、ある程度のソーシャルスキルを習得させ、キャリア教育を充実する必要がある。基礎学力の向上は教職員が担い、ソーシャルスキル教育やキャリア教育は外部の専門家が担うなど、両輪で進めていくことも大切である。
- ・ 高校に入学してから、今後の生活や進路のことなどをきちんと指導してくれるキャリアアカウンセラーの配置が、府立高校の底力を上げていくことにつながる。
- ・ すでに何校かの高校では、特色化に向けた学校改革が始まっているが、今回の検討会議を受けて、さらに、各高校独自の改革に向けた「本気度」を示す必要がある。そのためには、改革を推進するための校務分掌が必要である。特に、若い世代の教員がその任を担い、推進力となる必要がある。ただし、特定の教員に負う形の改革は長続きしないので、組織的に取り組むことが大切である。
- ・ 学校改革にあたっては、大胆な発想が必要である。「どこから切っても同じ金太郎飴」のような府立高校の在り方を根本から見直し、高校が向かいたい方向性がクリアに見えるような大胆な改革が求められている。
- ・ 部活動で結果を出すには、やる気のある生徒、素質のある生徒がいて、熱心な指導者がいて、常時使用できる施設があることが必須となる。
- ・ 教育課程上、例えば、土曜日に授業をしようと思っても府立高校では実施できない。私立高校とは非常に大きな差がある。府立高校独自に規制緩和を行い、私立高校と同等のことができるようにする必要がある。
- ・ 寮の整備も必要だと思うが、保護者は自宅から通えることに安心感を抱かれる。北部地域では、18歳で家を出ることが多いが、15歳でとなると保護者としては不安もある。鉄道もバスも便数が少ないため、高校で部活動や勉強をしたくても、時間が制約される。私立高校のように通学バスなどがあれば、さらに子どもたちの選択の幅が広がっていく。
- ・ 高校の特色化を支える条件面の整備をもっと考えてほしい。あんしん修学支援制度によって、私立高校と府立高校の費用面での条件は同じようになりつつある。
- ・ 府立高校の強味は、地域性である。単にその地域にあるということではなく、地域の一員と認められる学校となっているかという視点で、教育成果を点検していく必要がある。
- ・ 学校だけで改革を進めるのではなく、保護者や中学校、地域、民間などによるサポート体制づくりが必要である。外部の力を学校改革に取り入れていくべきである。